

過去スピ研究

立教4年 飯島 颯

PREVIEW

- 過去スピ研究の意義
- スピーチとは何か
- 1章「気づき」
- 2章「共感」
- 過去スピ研究の手順
- 過去スピ選びの注意点
- 実際にスピーチを見てみよう
- 最後に

過去スピー研究の意義

- ・ 「過去問」と同じ

＝スピーチ作成の時や後輩指導の時の「引き出し」を増やすため。

- ・ **内容面**＝トピックや主張内容別に何に気を付けたらいいかを抽象的に整理できるようになる（改善の方向性を予測できる）

- ・ **構成面**＝PHCS以外の、無限に存在する構成のパターンを知ることができるようになる（リライトや添削時の改善方の幅が広がる）

* PHCSは「馬鹿でもスピーチを書けるようにする道具」に過ぎない

- ・ **表現面**＝聴き手にインパクトを与える、覚えてもらうような表現が身につく（特に帰国子女スピーカー）

“ESS”スピーチとは何か

• **Persuasive Speech** (⇔ Informative speech, inspirational speech)

= (1 気づき) という価値を提供することを通して
聴き手の (2 共感) を喚起し、行動を促す競技。

* (1 気づき) がないスピーチはもはやスピーチではない

* (2 共感) は理解と納得を超え、行動を促す状態

= “I” と “YOU” を “WE” にするスピーチ

例) 勉強しろ！く～だから一緒に勉強しよう！！

ポイントは、(1 気づき) と (2 共感) をどうスピーチ内に出していくか

一章 「気づき」

「気づき」の種類

1、既存の価値観の再定義（辞書的な意味からの逸脱）

例) 「グローバル」とは？「違い」とは？

2、「命題」へのアンチテーゼ

例) 「長生き」は本当に良いことなのか？「クレーム」は悪いもの？

3、特定の課題に対する斬新な提案

例) 初対面の克服のためのマジック、自己紹介で覚えてもらうための

自虐、緊張をほぐすための変顔

などなど

・要は、「新しさ」が求められている。

この新しさをどう出しているかに着目する

気づきをどう得るか（トピック探し）

- ・ 具体的な事実や感情⇒抽象化（⇒転用）

例）環境によって集中力が変わる（事実）⇒「音の大きさ」によって集中力は変わるからでは？（抽象化）⇒タスクによって音を使い分けよう（転用）

例）不愉快な人、生理的にムリな人（感情）⇒自慢しているから？（抽象化）

⇒人に自慢をしないようにしよう（転用）

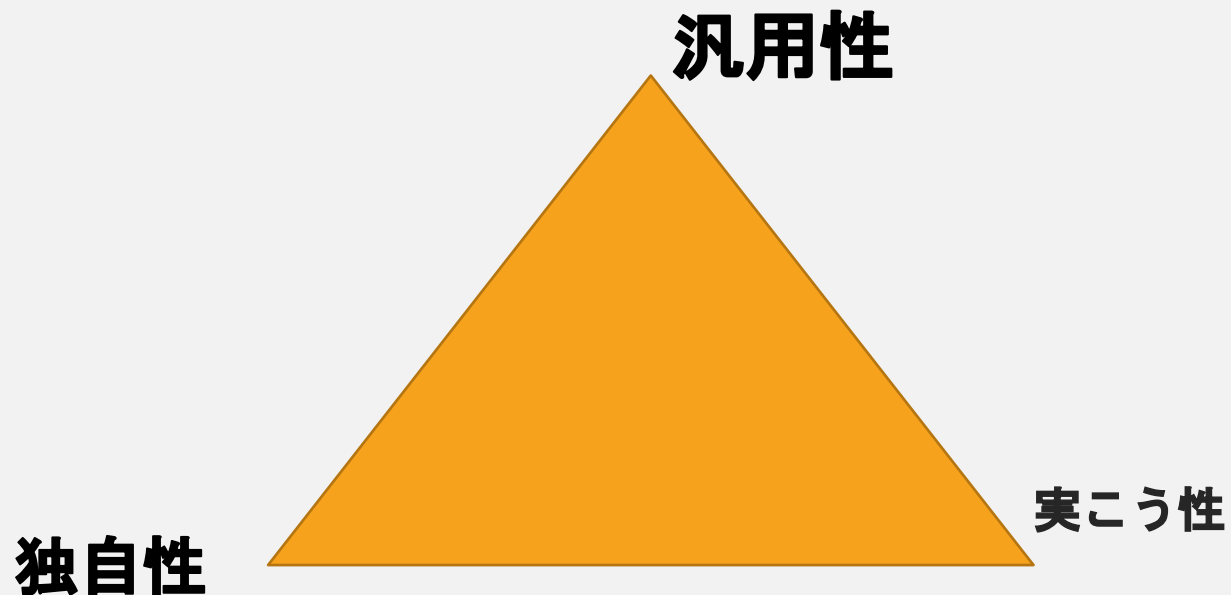
例）自慢すると人を遠ざける（事実）⇒人は他人の不幸が好きなのは？（抽象化）

⇒自虐を使って親しみをもってもらおう（転用）

- ・ ポイントは、**事実や感情の「背景」に注意を向けること**
「なんとなく」を言語化すること

「気づき」をトピックに出来るかの判断 (トピック選び)

- 汎用性・独自性・実こう性のバランスを考える
- その次に、重要性・緊急性を考える（プラスアルファ）



実こう性が出せないときは

- ・ ターゲットを限定し汎用性を狭めることで実こう性が出る場合がある

- ・ 2つのターゲット

- 人

例) 将来の親、祖父母がいる人、ESSの人、大学生

- ・ 状況

例) 初対面、大舞台

二章 共感

共感を呼ぶ3要素

- **ロゴス = 論理的要素**

⇒適切に（ 課題 ）を設定し、その（ 原因 ）を広く深く分析し、それに対して（ 有効 ）かつ（ 実行可能 ）な解決策を提示できているか = （ 課題解決 ）能力

- **パトス = 情熱（感情）的要素**

⇒自分の主張を最大限感情的に、印象づけて伝えられているか = 表現力（デリバリーだけでなく、文章表現にも表れる）

- **エトス = 人格的要素**

⇒その人の（ 印象 ）を決めるもの全般（外見的なものだけでなく、その人の背景や経験など） = だから（ 自己体験 ）が大切になる。ユーモアもここに含まれる

☆初心者はまずロゴスに注力！

ロゴスの前提

1、段落構成

イントロ⇒ボディ⇒エンディング

2、文章構成

トピックセンテンス⇒サポーターセンテンス⇒コンクルーディングセンテンス

1、段落構成

イントロ

- Attention Getting
- Preview ▪ ▪ ▪ A/GとThesisのつながり
- Thesis Statement ▪ ▪ ▪ M/CとISの提示

*書き始める順番は

Thesis ⇒ Preview ⇒ Attention Getting

Thesisを起点に考えた方が繋がりが自然になりやすい

*PreviewはSo, todayに続く内容

*開始30秒でそのスピーチを聴くか決める＝冒頭はくそ大事

1、段落構成

ボディ

Main Claim, Ideal situation, Current situation, Problem, Harm, Cause, Solution, Necessity (why “us” と why now) Significance、How (Solutionを**実行する手段**)、Merit、Governmental Stance(**政府の立場**)、**反論吸収**などなど、、、

*ボディはブレストの段階で整理する要素

1、トピック選定ブレスト・・・1、M/C、I/Sを言語化

2、ターゲットの確定

3、抽象的なキーワードの定義づけ

2、構成ブレスト・・・上記のロジック要素の流れを整理する

1、段落構成

エンディング

- ・「主張の要約」と「印象付け」の2つ。ここでI/Sを再提示するパターンも多い

- ・印象付けには

引用、描写、比喩、繰り返し、問いかけ、イントロとのサンドイッチ、タイトル回収

などさまざまな手法があり、これらが主張の要約を兼ねることも

*主張の要約ではボディでの言い回しをくり返さないほうがいい

2、文構成

- ・ **トピックセンテンス (T/S)** ・ ・ ・ 各段落の頭の文。述べたいことを「抽象的」に述べる。

* 「抽象的」に述べる意義はその後の内容に対して興味を惹くため。

- ・ **サポーティングセンテンス (S/S)** ・ ・ ・ T/Sで述べた内容の「裏付け」となる内容。具体例、データ、質問、説明などその手段は多岐に渡る。

- ・ **コンクルーディングセンテンス (C/S)** ・ ・ ・ T/SとS/Sの内容を踏まえ、その段落で述べたいことをまとめる

2、文構成

- **Inferiority.** It is the feeling that we have when we compare our abilities with our rivals' ones. Let's say you are a high school student with the aim to enter a university. Many other students easily get good scores every time they take practice tests. On the other hand, your scores are always terrible in spite of your hard efforts. How would you feel for this gap? Wouldn't it make you feel miserable? Wouldn't it make you lose your confidence? Like this, when we realize we are no match for our rivals, we tend to choose giving up. This feeling is what I call the "bullet" of inferiority.

“Bite the Bullet”

パトス・エトスで気をつけること

- 春セミの「リライトレクチャー」のレクチャー動画を参考に！

過去スピ研究の手順

- 1. さらっと一読して自分の中で5段階評価する
- 2. 段落構成の分析、各段落の役割を横にメモる
- 3. 文構成の分析、T/S・S/S・C/Sの割り振り
- 4. 見えそうなフレーズにマーカー
- 5. 1の評価を基に、「なぜそう感じるのか」を言語化する。その他良いと思ったところと改善点を挙げる。

*改善点が思いつかないときはQを3つ考える。

*特に、「どこで「気づき」を与えているか」、また、ロゴス・パトス・エトスの観点から「なぜ「共感」できるか、またはできないか」を考える

過去スピーチ選びの注意点

- 1. 「一発屋スピーカー」より、複数のトピックでオープンに出てるスピーカーを参考にするべき
 - *後者の方がオープン出場に必要な要素を過不足なく満たしているケースが圧倒的に多い。
- 2. エトス的要素（特にP/Eの独自性とインパクトの大きさ）に依存しているスピーチは戦績が良くてもコンテンツ面では参考できない
 - *ライティングや表現の参考には出来る
- 3. 素人がストーリーテリングに手を出すな！
 - *そもそも審査基準に合っていない。もはやそこを超越するほどの技術があるなら話は別。けどそれは本当にトップ層。基本的に絶対無理。

実際にスピーチを見てみよう

- “*Yes, when it comes to Magic*” 西村健、法政大学、2018
7大会出場、Audience Prize 1回、準優勝1回、優勝2回（通年）
* 第12回東大杯時のスピーチがYoutubeにあり
- 特定の課題に対して斬新な提案をする、特殊なスピーチ
* 単なる「趣味・特技スピーチ」ではないことに注意！
特定の「課題」を解決しなければ”ESS”スピーチではない！

実際にスピーチを見てみよう

- “*Leaving and Receiving*” 吉田・マーク・ジオ、立教、2018

13大会通過、3位2回、準優勝1回、優勝3回（通年）

- “*Setting Foot on the Field*” 山本奈々、Wesa、2019

14大会通過、3位2回、準優勝1回、**優勝6回（昨年度最多優勝）**（通年）

- “*Your Thoughtful Consideration*” 山下心子、慶応、2019

7大会通過、3位1回、準優勝3回、優勝1回、（辞退2回、**全出場大会で入賞**）（後期のみ）

・どれもオープン大会優勝スピーチで、ESSの評価基準に綺麗に沿ったスピーチ。あれこれ手を出すよりこれらを読み込んだ方が良い)